



宮前中だより

さいたま市立宮前中学校
学校通信 No. 11
令和4年3月1日(火)

さいたま市西区宮前町1467-1 Tel 623-7381 e-mail: miyamae-j@saitama-city.ed.jp

『感動をありがとう』

校長 大木 克巳

17日間にわたる北京・冬季オリンピックが終了しました。日本選手から多くの感動をもらいました。スノーボードハーフパイプの平野歩夢選手の大技の連発、スキージャンプの小林陵侷選手の高く、美しいジャンプ、スピードスケートの高木美帆選手のメダルラッシュ、姉・高木菜那選手の転倒にはもらい泣きしました。スノーボード・ビッグエアの村瀬心椛選手のはじける笑顔、ハラハラドキドキのカーリングやフィギュアスケート選手の活躍も目を引きました。

多くの感動をもらったオリンピックでしたが、今大会では競技のルールや採点方法などがクローズアップされていました。各スポーツには、それぞれの競技規則があります。その目的は大まかには「選手が公平・公正にかつ安全に競技を行う上での基準」とされています。その中には、審判や採点についても書かれています。私もサッカーの審判を務める時は、「公平・公正、安全」を常に意識して行っていました。今大会の個々の判定や採点を批判するつもりはありませんが、その運用方法には疑問を持ちました。オリンピックに参加する選手達は、日々練習を重ね、各国の予選を勝ち抜き代表となり、他人には理解しがたい想いをしてきたはず。「ルールは守らなければならない」「ルールを犯すとペナルティーがある」というのはみんな理解できていると思いますが、ルールを運用する側にズレがあると大きな問題を引き起こします。スキージャンプ混合団体での高梨沙羅選手の2本目のジャンプ、どんな思いで飛んだのでしょうか。想像を絶する絶望感が彼女を包んでいたはず。彼女を励ます日本チームにも感動しました。また、15才のフィギュアスケート選手の問題もありました。みなさんはどのように感じましたか？

さて、3年生は公立高校入試も終わりました。少しほっとして、4日の合格発表を待つ期待感でいっぱいなのでしょう。卒業式は残念ながら、昨年と同様に保護者1名のみでの参加、地域来賓の参加はなく、在校生も代表生徒のみで、内容も縮小した形式での開催となります。しかし、心を込めて3年生の旅立ちをお祝いする最高の場にしたいと考えています。参加できない1、2年生は会場準備や清掃活動でしっかりと3年生の旅立ちの舞台を作ってください。

今年度も残り僅かになりました。卒業、進級とそれぞれの新しいステージに向けて、気合を入れなおしていきましょう。私もみなさんに感動を与えられるように頑張りたいと思います。

最後になりますが、地域、保護者のみなさま、今年度もたくさんのご支援、ご協力に感謝申し上げます。来年度も引き続きよろしくお願ひいたします。